

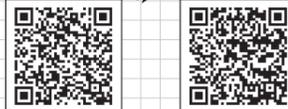
特集 岐阜市の上下水道 事業の現状と取組み

1 水道事業について

概要

岐阜市の水道は、昭和3年に鏡岩水源地の建設工事に着手して以来、良質で豊富な長良川の伏流水や地下水を水源としています。現在では、地形や施設の効率性を考慮して、給水区域を6つに分け、17箇所の水源と21箇所の加圧施設、40箇所の配水池を配置しています。
水道は、生活に不可欠な水を安定的に供給する施設であり、安全な水道水を供給することで皆様の快適な生活を支えています。

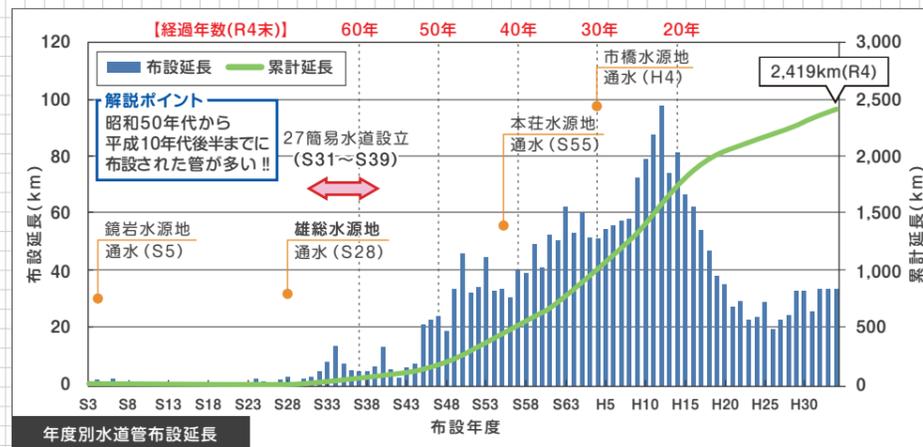
岐阜市の水道についての詳細は、水のごえ第51号、第52号をチェック!!



水のごえ第51号 水のごえ第52号

水道施設の老朽化・耐震化状況

老朽化の状況



法定耐用年数40年を経過する水道管

【令和4年度末】
総延長の21% (約512km)
 更新しない場合、20年後には…
 【令和24年度末】
総延長の72% (約1,740km)



耐震化の状況

	[H30]	[R4]	[R6(予定)]
○ 水源地の耐震化率	44%	66%	94%
○ 配水池の耐震化率	68%	76%	81%
○ 基幹管路の耐震化率 (令和4年度末の基幹管路延長 132km)	46% (60km)	47% (62km)	年間約24km (更新率1%) の水道管を更新
○ 管路全体の耐震化率	18% (432km)	23% (552km)	

鏡岩水源地理想棟の改築後は、本荘配水池の耐震化後は、

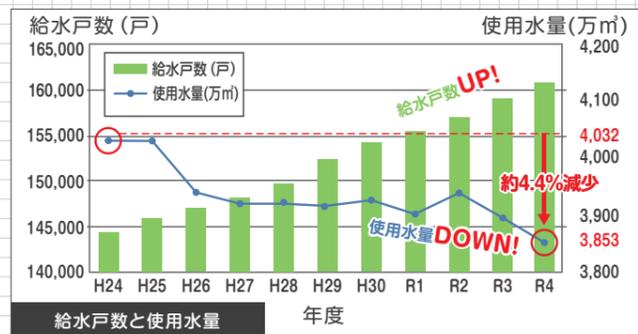


老朽化対策、耐震化を進めるため、今後も計画的に改築・更新に取り組みます。

水道の利用状況

給水戸数は増加している一方、人口減少や節水型社会の進展により、さらなる使用水量の減少が見込まれることから、今後経営が厳しくなることが予想されます。
事業効率化や経費削減などに努め、持続可能な水道事業の運営に取り組みます。

【令和4年度】
 ○ 給水戸数 約160,711戸
 ○ 年間使用水量 約3,853万m³
 ○ 1戸 月当たり平均
 ・使用水量 約20m³
 (風呂1回200ℓ×100回分)
 ・水道料金 約2,930円



2 下水道事業について

概要

岐阜市の下水道は、昭和9年に当時では画期的な汚水と雨水を分けて処理する分流式下水道を日本で最初に採用しました。現在では、処理区域を4つの処理区と流域下水道に分け、4箇所の下水処理場と2箇所の汚水ポンプ場を配置しています。
下水道の整備により、公衆衛生の向上、公共用水域の水質保全など、皆様の快適な生活に寄与しています。

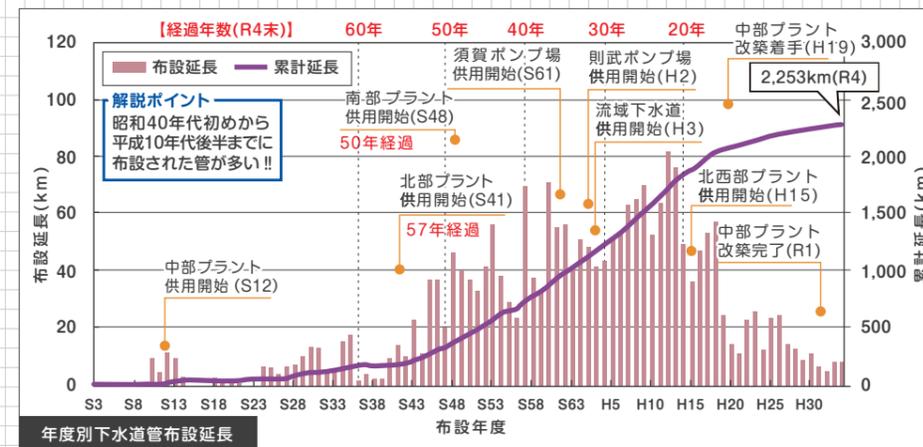
岐阜市の下水道についての詳細は、水のごえ第53号をチェック!!



水のごえ第53号

下水道施設の老朽化・耐震化状況

老朽化の状況



法定耐用年数50年を経過する下水道管

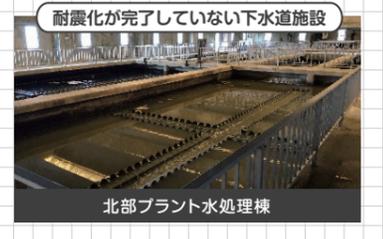
【令和4年度末】
総延長の14% (約325km)
 更新しない場合、20年後には…
 【令和24年度末】
総延長の54% (約1,207km)



耐震化の状況

	[H30]	[R4]
○ 処理場(揚水・沈殿・消毒施設)の耐震化率	58%	58%
○ 重要な幹線管の耐震化率 (令和4年度末の重要な幹線管延長 341km)	43% (138km)	45% (154km)

※処理場については、老朽化した設備の更新を行っており、今後、施設の改築に合わせて耐震化を行う予定です。



老朽化対策、耐震化を進めるため、今後も計画的に改築・更新に取り組みます。

下水道の利用状況

下水道の利用戸数は増加している一方、人口減少や節水型社会の進展により、さらなる排水量の減少が見込まれることから、今後経営が厳しくなることが予想されます。
事業効率化や経費削減などに努め、持続可能な下水道事業の運営に取り組みます。

【令和4年度】
 ○ 利用戸数 約164,506戸
 ○ 年間排水量 約4,293万m³
 ○ 1戸 月当たり平均
 ・排水量 約21m³
 (風呂1回200ℓ×105回分)
 ・下水料金 約3,230円

